

選ばれる調剤併設ドラッグストアの条件～患者アンケートより～

○深津 英人<sup>1</sup>, 高田 智<sup>1</sup>, 北井 実香<sup>1</sup>, 安達 土郎<sup>1</sup>, 前嶋 克幸<sup>1</sup>, 尾関 佳代子<sup>1</sup>,  
野嶋 芳紀<sup>1</sup>, 二橋 純一<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林堂薬局)

<目的> 近年、医薬分業が進み、「かかりつけ薬局」の重要性が叫ばれるなか、調剤併設型ドラッグストアが身近な存在となり患者数も急増している。そこで患者はどのような条件を重要視して薬局を選択するのか、調剤併設型ドラッグストアを利用した患者へのアンケート調査をおこなった。

<方法>平成22年8月から9月にかけて浜松市から静岡市までの調剤併設型ドラッグストア16店舗において800枚のアンケートを無作為に配布し、自記式郵送法により回収をおこなった。

<結果>アンケートは499枚が回収され、回収率は62.3%であった。アンケート回答者は初めての利用が7.8%、6回以上利用が65.9%であった。この6回以上利用している患者のうち、88.1%は毎回必ず利用していた。次に今回利用した理由の問いで回答総数1437、1枚あたり $2.88 \pm 1.02$ の回答を得た。利用の理由として買い物があったから(286票)、いつも利用しているから(226票)、家が近いから(220票)が上位を占めた。特に買い物があったからは回答者数の半数以上(57.3%)が利用の理由としたが、優先順位が高い理由ほど家が近いから、帰り道の途中だったからといった立地的な要因が重要なものとして挙げられた。

<考察>調剤併設型ドラッグストアは利便性が高いため、リピート率が高く、継続して利用していることが示唆された。これは厚生労働省がすすめる「かかりつけ薬局」としての役割を果たしやすいと考えられる。また、買い物ができることは薬局として選ばれるのに有利ではあるが、最大の理由とはならず、家が近い、帰り道であるなど立地、コンビニエンスが最も優先されることが示唆された。